

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

 TEL 098-868-6895
 FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

地道な営業活動と 40 年前に種まいたマグロの養殖で成長発展 (近大)

1. 近大は強固な収益力で財務基盤を築いてきた。入学金や授業料などの総収入から、人件費や研究経費などの費用を引き、企業の純利益に相当する「帰属収支差額」。近大は 2013 年度に 105 億円と、同志社大学 (54 億円) や慶應義塾大学 (47 億円) など主要私大をはるかに上回る。1990 年代に 500 億円以上の借入金があったが、投資を絞り込んで徐々に減らし、2009 年度以降は無借金だ。長期・短期借入金と学校債の負債合計額が 116 億円ある慶應義塾、122 億円の早稲田大学との差も大きい。
2. 受験業界でも近大は注目の的だ。2006 年度は約 5 万 2000 人と落ち込んだ一般入試の志願者数は次第に回復し、2014 年度に 10 万 5800 人へ倍増。それまで 4 年連続で 1 位だった明治大学 (10 万 5500 人) を抜き、初の全国トップとなった。高校の校長や自治体の教育委員会経験者らを活用し、関西地区を中心に延べ 3000 校の高校を訪問するなど、地道な「営業活動」が実を結んだ。
3. 「稼ぐ大学」への転換は、一朝一夕にできたわけではない。近大はその種を 40 年以上前にまいていた。一例が、今や近大の代名詞ともなったマグロの養殖だ。また、近大出身の社員が多い大和ハウス工業は、「社会を支える人材を多く輩出している印象。近大のチャレンジ精神は、事業の多角化を目指す当社の経営方針とも合致する」と評価する。激化する大学間競争。イメージ戦略で学生数という「量」は確保したが、膨らんだ姿が虚像ならば、いずれその実力はあらわになる。「質」をどう高められるかが今後の課題だ。

(参考:「日経ビジネス」2014 年 8 月 11 日・18 日号)

ワンポイント経営アドバイス

伊丹空港の生き残る道

1. 新関西国際空港会社は 7 月期 25 日、同社が運営している関空と伊丹の運営権を民間に売却することを発表した。そのうち、伊丹空港は長期的な課題を抱えている。リニア中央新幹線が 2027 年に品川―名古屋、2045 年に名古屋―大阪の開業を予定しているからだ。現在、伊丹は国内線のみで運用されており、中でも羽田―伊丹線は最大のドル箱路線だ。リニアが開通すれば、羽田線の減便は確実である。
2. その問題の解決モデルとなりそうなのが、ロンドンシティ空港だ。ロンドン中心部から 10 km という便利な場所に位置しており、ターミナルビルがコンパクトで使いやすい。そのため、ビジネスマンを中心に支持されている。伊丹も今後を見据えれば、利便性を求める乗客にターゲットをシフトすべきだ。伊丹から梅田までは、タクシーを使えば最短 15 分で行くことができる。チャーター便やビジネスジェットなどで、カネより時間を重視する利用者に訴求することだ。

(参考:「週刊東洋経済」2014 年 8 月 23 日号)

海外事情

高度なサービス業が成長 (アメリカ)

野口悠紀雄 (早稲田大学ファイナンス総合研究所顧問)

1. リーマン前から、アメリカ経済をけん引しているのは、金融やマネジメントサービスなど高度なサービス業だ。自動車や電機などの古いタイプの製造業が復活しているわけではない。シェールオイル革命で製造業がアメリカに回帰しているという見方がある。しかし、成長しているのは、エネルギーコストが問題になるような産業ではない。
2. アメリカは製造が伸びているのは事実である。増加率は 13.9%。しかし、この率は経済全体の増加率より低い。つまり、製造業の比重は下がっているわけだ。しかも、自動車産業などの伝統的な製造業が含まれる「耐久財製造業」の増加率は 10.4%と、かなり低い。他方で「ファイナンス・保険」の増加率は 25.0%だ。不動産の増加率は 16.4%だ、「専門的ビジネスサービス」は 15.2%だ。その中に含まれる「マネジメントサービス」は 24.6%で、「ファイナンス・保険」と「専門的ビジネスサービス」の付加価値の合計は、製造業の付加価値の 1.5 倍である。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2014 年 8 月 23 日号)

古典に学ぶ

人生の楽しみ

(解説) 林類 (欲望を捨て去って、木や林の類いに近い人物) は、もう百歳近い老人である。春なのに、まだ冬の毛皮を着たまま、田のあぜで鼻歌まじりに落ち穂をひろっている。おりから衛の国へ行く孔子が、この姿をみかけ、弟子たちをふりむいた。子貢が問うた。「ご老人、落ち穂ひろいなどしているのに鼻歌ですか。ご自分をみじめだと思いませんか」。林類わらった。「ひとがみじめと思うことがわたしには楽しみなのだ。お前のいうとおり若いころ勉強しなかった。おとなになって出世など考えなかった。だからおかげで長生きできたのだ。だから楽しいのだ」。

(参考: 奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」: 徳間書店)